

項目	内容
①小規模な人間関係の中で獲得する社会性に不安な点と	<ul style="list-style-type: none"><li>・固定された狭い人間関係、保育園から続く子ども社会であり、暗黙の順列や強制力が働いている。</li><li>・固定化された人間関係の中で、うまくいかない子どもは辛い思いを抱えたまま6年間を過ごすことがある。</li><li>・新たな友達や集団に出会う機会が少なく、クラス替えがないため、成長に伴う変化が反映されにくい。</li><li>・序列化されてしまうので、チャレンジ精神を育むのは難しい面もある。</li><li>・競争心や切磋琢磨するライバルの存在がなくなってしまう。</li><li>・伸びようとする意欲や自己肯定感が低い児童が増えている。</li><li>・多様な人間性、様々な考え方、ものの見方、価値観に触れる機会が少ない。</li><li>・単学級のため、学級間の相乗効果が期待できない。</li><li>・人間関係上の問題が発生した場合に、クラス替えなどによる問題の解消ができない。</li><li>・大きな集団の中での発表や話し合いなどに不慣れ。</li></ul>
②学校行事など教育場面の設定が困難	<ul style="list-style-type: none"><li>・委員会活動、クラブ活動などの活動内容が制限されたり、少ない人数で仕事を振り分けることが多くなる。</li><li>・児童数が足らず、掃除が十分にできない。</li><li>・各行事の役職等を半ば無理にさせている。リーダーシップ育成の観点からも問題あり。</li><li>・学校行事は縮小したものにならざるを得ない。</li><li>・PTA活動など、保護者への負担も大きくなっていく。</li><li>・男子が少ない為に、運動会のリレーで男子の代わりに女子が出場せざるを得ない状況である。</li><li>・上学年の人数が少なければ、縦割り活動や運動会の団の編成などに影響がある。</li><li>・少人数が故に、迫力や盛り上がり欠ける面がある。（運動会を午前中で終わらせることも可能）</li><li>・組織的な体制が組みにくい。</li></ul>
③教育活動の機会均等の保障・維持が困難なこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・TT少人数担当などの級外職員の配置が学校によってあったりなかったりする。</li><li>・校務分掌を少ない職員でこなさなければならず、児童に向き合う時間が減少する。</li><li>・職員数が少ない為に、何をすることも制約がかかり、やりたいことが十分にできない。</li><li>・TT加配がなく、級外は教務主任だけなので、補欠授業を考慮して出張等計画せざるを得ない。</li><li>・学び合いの場面では、意見が少なく、なかなか思考が広げられない面がある。</li><li>・体育のゲームでチームが組みにくい。</li><li>・加配教員がいないため、教頭と教務がTT指導に入っている。</li><li>・委員会やクラブ活動の種類が少なく、選択肢が限られる。</li><li>・少ない人数であっても支援が必要な児童はいるが、職員の加配がなく十分な支援ができない。</li></ul>
④余裕のない教育職員配置による不慮の事故等への対応	<ul style="list-style-type: none"><li>・バス旅行や校外学習時の引率が難しい。（級外職員や学習支援員を付けることはできるが、運用の規制がある）</li><li>・出張や年休等があれば、学習の保障、安全確保の対応にとっても苦勞する。</li><li>・小規模校には、級外（担任以外）は教頭と教務主任だけであり、慢性的に授業時数と校務分掌が満杯になっている。</li><li>・教職員数や児童数に対し、学校敷地面積や校舎面積が広く、管理や防犯などの面で厳しい状況であり、児童の立ち入りを禁止している場所がある。</li><li>・教職員や児童数が少なく、毎日の掃除は校舎内で手一杯で校庭まで行うことができない。</li><li>・教職員や児童数が少ないため、目が届かない場所が多く、外部からの不審者侵入などが心配である。</li><li>・担任の出張や年休が重なると、教頭と教務の両方が職員室を空けるため、不慮の事態発生時の体制が取りにくい。</li><li>・食物アレルギーや地震等、緊急対応時の初期対応への不安が大変大きい。</li><li>・校外学習時の引率人数が限られ、安全確保に不安がある。</li></ul>
⑤少人数による男女の隔たり。これによる児童の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・男女の隔たりではないが、学年により児童数に偏りがある為、班やグループ編成等が上手くいかない場合がある。</li><li>・男女のアンバランスでは、いろいろな場面で難しさを感じている。</li><li>・少人数では、男女の人数差は数人でも、男女比となると2倍、3倍の違いになる。</li><li>・男子、女子それぞれの人数が少ないことで、高学年になってからの休み時間の遊びが思うようにいかないことが考えられる。</li><li>・トイレ掃除の分担等をする際に、男女を考えて役割分担する必要がある。</li></ul>

■児童生徒数の減少による影響（町内中学校の現状）

項目	内容
①学校行事など教育場面の設定が困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「競い合う」、「高めあう」手立てとして体育的行事及び文化的行事で、対抗の場を設定するが、常に2学級のための対戦となる。（多様な場の設定が可能であれば、生徒の活動意欲の向上、競い合う楽しさを実感できる行事の実施が可能）</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒、配慮を要する生徒が増加傾向にある状況の中で、生徒間、保護者間の人間関係に配慮した学級編成を余儀なくされる。（学年の学級数が多くなると、柔軟に対応することが可能）</li> <li>・3年生は特に、生徒会役員、生徒会行事、各行事での実行委員等の出番が多く、生徒の負担は大きい。</li> <li>・体育大会時、2分団に分けるが、学年により1学級のために、学級を2分する必要がある。</li> <li>・生徒が少ないが故の負担は、全職員でカバーしている。</li> <li>・学校規模が小さくなれば、規模に応じた取り組みが限界となる。しかし、質が落ちないように頑張るには、生徒、保護者、職員の共通理解と協力が不可欠である。</li> <li>・体育大会や合唱コンクール、クラスマッチ等、盛り上がり欠けることが予測できる。（リーダー不足・学級対抗が2つしなくなる）</li> </ul>
②部活動に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他中学校との合同チームを編成している部が存在する。</li> <li>・近隣中学校への選手レンタルでの支援を行った。</li> <li>・一般的に競技者数が多い男子バスケットボール部については活動休止中。</li> <li>・生徒数減少や社会体育への入会により、部活動生徒数減少が発生し、部活動運営に苦慮するケースが生じている。</li> <li>・入りたい部がないため、社会体育チームに入会する生徒がいる。</li> <li>・社会体育から中体連出場にかかり、引率職員が必要になる。</li> <li>・人数が足りて試合に出られなくても、体力的・体格的・技術的に劣る1年生がレギュラーで出場しなければならない状態。</li> </ul>
③教育活動の機会均等の保障・維持が困難なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の指導力向上や資質向上の観点からも、各教科担当者の複数配置が望ましい。</li> <li>・H31年度より、全学年小規模学級を編成することが可能となったが、学校規模が小さい故、職員の人数が影響し、小規模学級の編成が困難である。</li> <li>・小規模学校により職員数が少ないため、自閉・情緒学級の抜き出し授業の時間割編成に苦慮する。4時間空き時間なしの職員がいる。</li> <li>・生徒のリーダー不足とリーダーの固定化が問題である。</li> </ul>